

経営者と高リスクの習慣

がん社会 を診る

中川 恵一

このサーベイでは厚生労働省が毎年実施する「国民生活基礎調査」の質問項目にある「喫煙習慣」「飲酒習慣」「睡眠時間」を選び、同じ質問を中小企業の経営者（男女別／年代別）にたずねています。経営者と一般の人々の生活習慣を比較するためです。

「喫煙習慣」の質問で「毎日吸っている」と回答した人の割合は、性別や年代別にかかわらず「中小企業経営者」一般国民」となりました。若

い経営者ほど顕著で、30歳代の男性をみると中小企業経営者が39%だったのに対し、一般国民は11%と、28%の差がありました。40～50代でも、男性経営者と一般国民との差は20%を超えています。

男性の発がん原因の4分の1がたばこですから、経営者に喫煙者が多いことはとくに問題です。日本人男性の3人に2人近くががんに罹患（りかん）しますが、経営者のがんのリスクは平均を上回っています。

でに20年もかかりますから、30代に喫煙習慣があると、後ほど働き盛りの年ごろになってからがんと診断されることになります。

私が議長を務める国家プロジェクト「がん対策推進企業アクション」で、中小企業のがん対策について大同生命保険と共同調査を実施してきました。中小企業向けの生命保険を取り扱う同社は、中小企業のような動向を調査する経営者アンケート「大同生命サーベイ」を毎月実施し、結果を公開しています。

2024年11月に実施したサーベイで、中小企業の経営者の生活習慣に関する大変興味深い結果が出ました。



イラスト 中村 久美

女性の場合も、経営者に占めるたばこを毎日吸う人の割合は一般の人よりはるかに高く、30代で4倍超、40代で5倍弱、50～60代でも約3倍となりました。たばこの煙には70種類もの発がん性物質が含まれ、ほぼすべての臓器のがんを増やします。がんが検査で発見できる大きさになるま

「睡眠時間」の回答で最も短い「5時間未満」を選んだ人の割合は、30歳代の男性中小企業経営者は12%で、一般国民の7%を上回りました。

企業規模が小さいほど、経営者が担う役割は大きくなります。私の実家も、中川酸素という小さな会社を営営していました。経営者の体は自分だけのものではありません。自覚を持って健康をいたわってほしいです。